

なぜ社会的孤立・孤独の 予防が必要なのか

浦 光博

(JST-RISTEX SOLVE for SDGs(社会的孤立枠)プログラム総括)
(追手門学院大学)

今回お話しすること

- サンプルとデータ
- 孤立の現状
- 孤立の不可視性
- 孤立の自己責任化
- 孤立の常態化
- 孤立と孤独感の関連
- 心身の不調、逸脱性との関連
- 孤立・孤独から排除への連鎖
- 孤立者の特徴
- 社会的孤立・孤独の予防の必要性

サンプルとデータ

- 20代から60代までの男女4000名を対象としたweb調査
 - 各年齢層800名、男女それぞれ400名
 - 孤立の定義
 - サポートティブな関係性の欠如
 - 普段からちょっとしたことで助け合ったり(ソーシャルサポート)、世間話をしたり(コンパニオンシップ)する相手がどれくらいいるか
 - 1 まったくない : 完全孤立者
 - 2 ほとんどいない : 潜在的孤立者
 - 3 少しはいる
 - 4 かなりいる
 - 5 とても多くいる
- 孤立者
- 非孤立者

サンプルとデータ

• 孤独感の測定

- Igarashi(2019)の3項目版の孤独感尺度を用いて孤独感を測定

- あなたは、自分に仲間付き合いがないと感じることがありますか
- あなたは、疎外されていると感じることがありますか
- あなたは、他の人から孤立していると感じることがありますか
 - 1 ほとんどない
 - 2 たまにある
 - 3 よくある

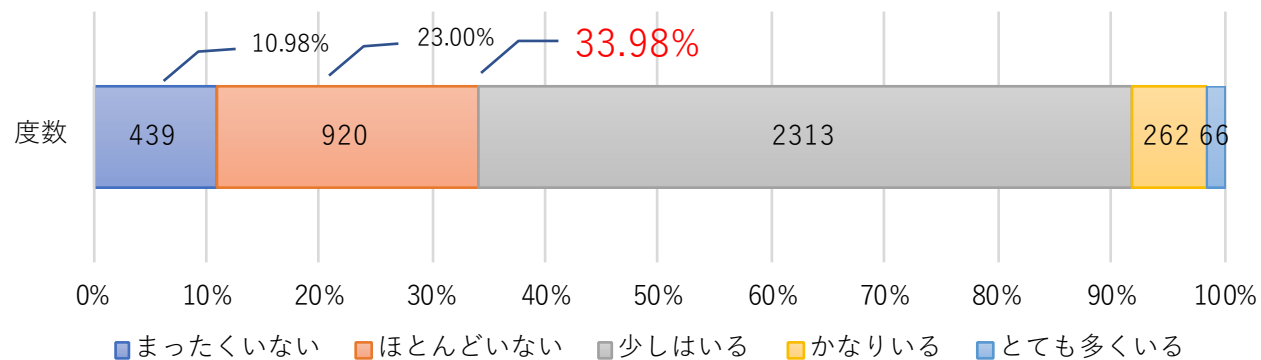
- Igarashi, T. (2019). Development of the Japanese version of the Three-Item Loneliness Scale. *BMC Psychology*, 7:20, 1-8.

サンプルとデータ

- 心身の不調、逸脱性との関連についてはn=1247
 - 心の不調: 抑うつ(THI抑うつ尺度)
 - 体の不調: セルフコントロール(尾崎・後藤・小林・沓澤,2016)
 - 健康関連行動との関連が指摘されている
 - 逸脱性: 道徳的人生観(辻岡・村山,1975)
 - 逸脱性: 心的帰属(非人間化)(Kozak, Marsh, & Wegner, 2006)
 - 人としての心をどれくらい持っている、持っていないと自己評価しているか
 - 認知
 - 意図
 - 感情
 - これらの得点が低いということは、自分自身を非人間化していることを意味する

孤立の現状

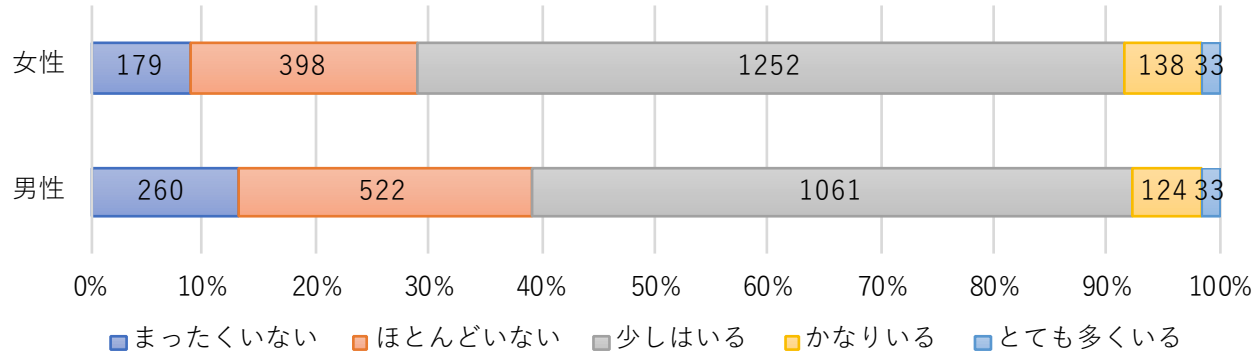
Q1.あなたには、普段からちょっとしたことで助け合ったり世間話をしたりする相手がどれくらいいますか。



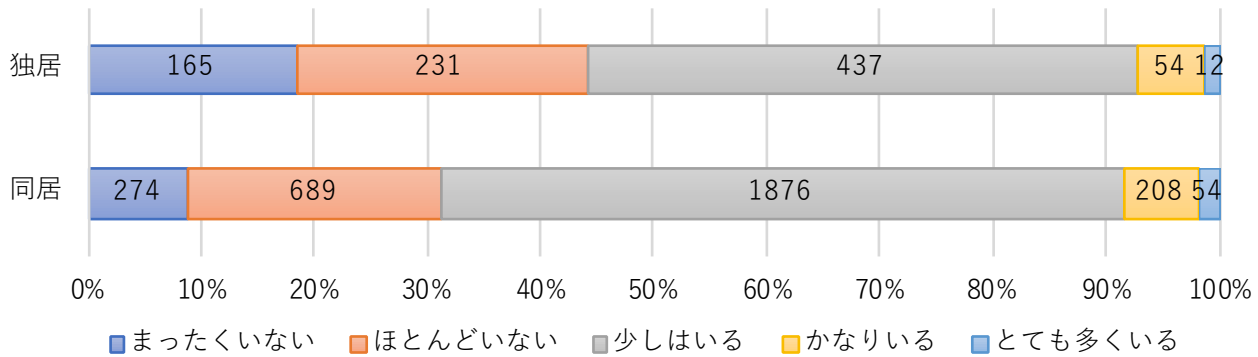
完全孤立者は約11%
潜在的孤立者は23%
→孤立者に分類されるのは約34%



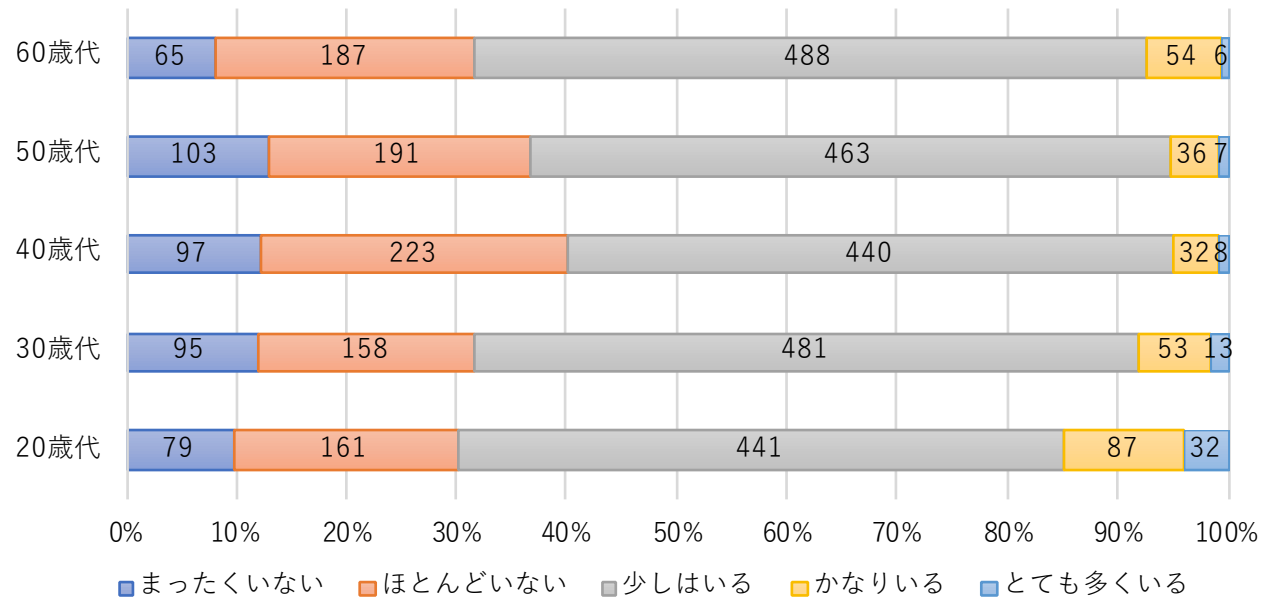
あなたには、普段からちょっとしたことで助け合ったり世間話をしたりする相手がどれくらいいますか。



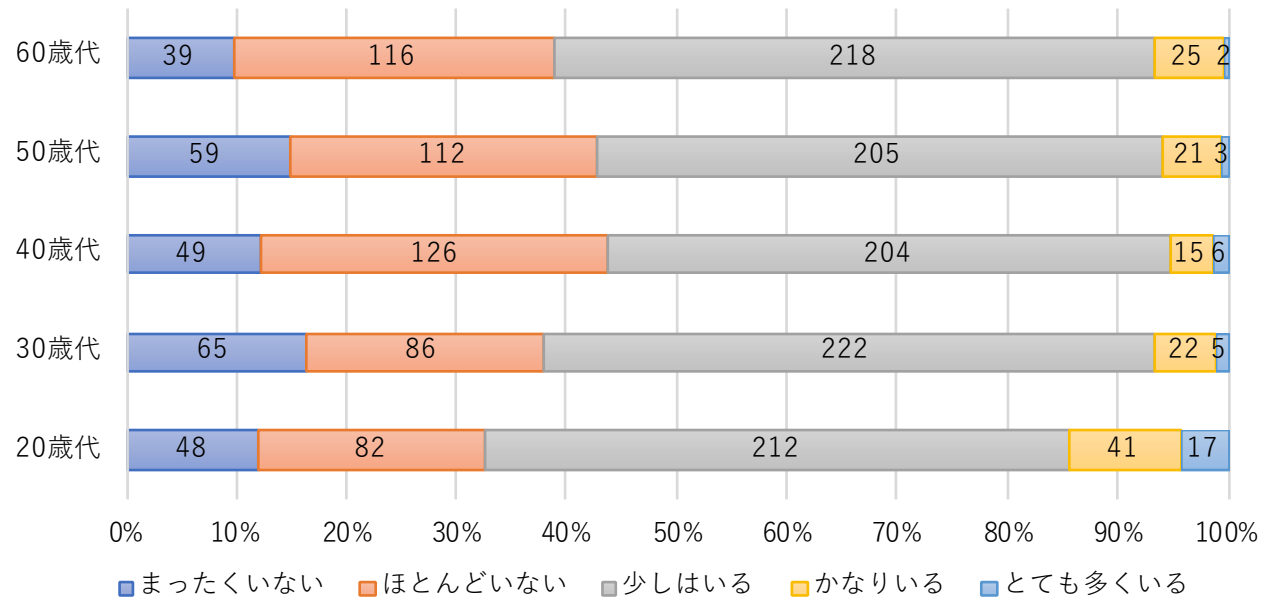
あなたには、普段からちょっとしたことで助け合ったり世間話をしたりする相手がどれくらいいますか。



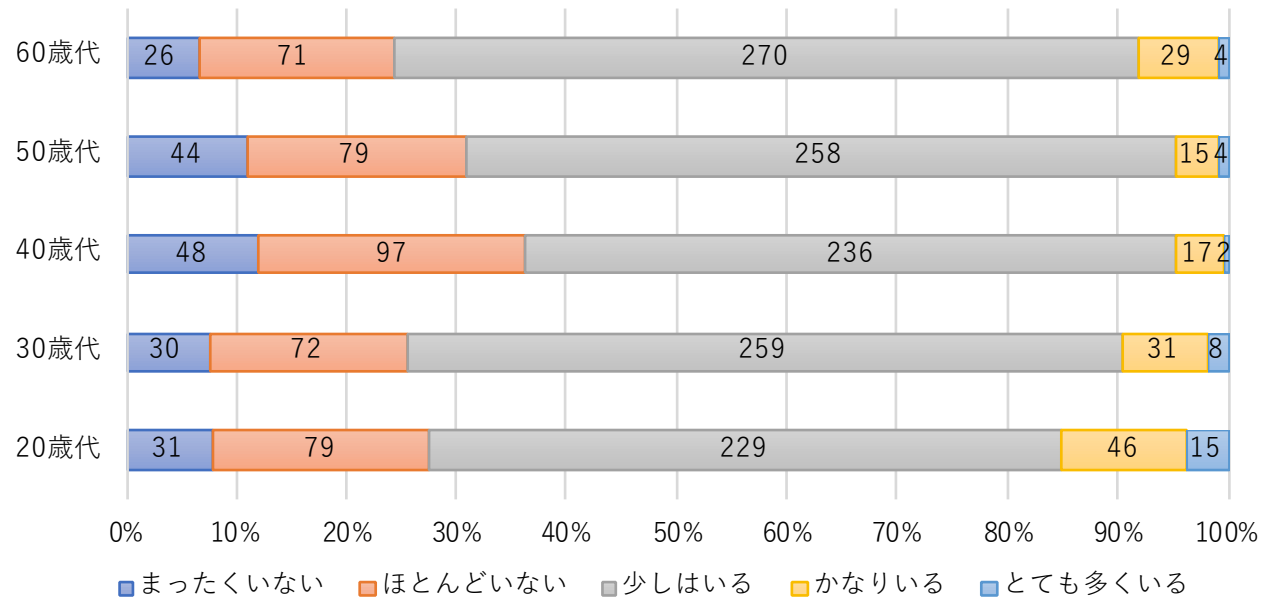
あなたには、普段からちょっとしたことで助け合ったり世間話をしたりする相手がどれくらいいますか。



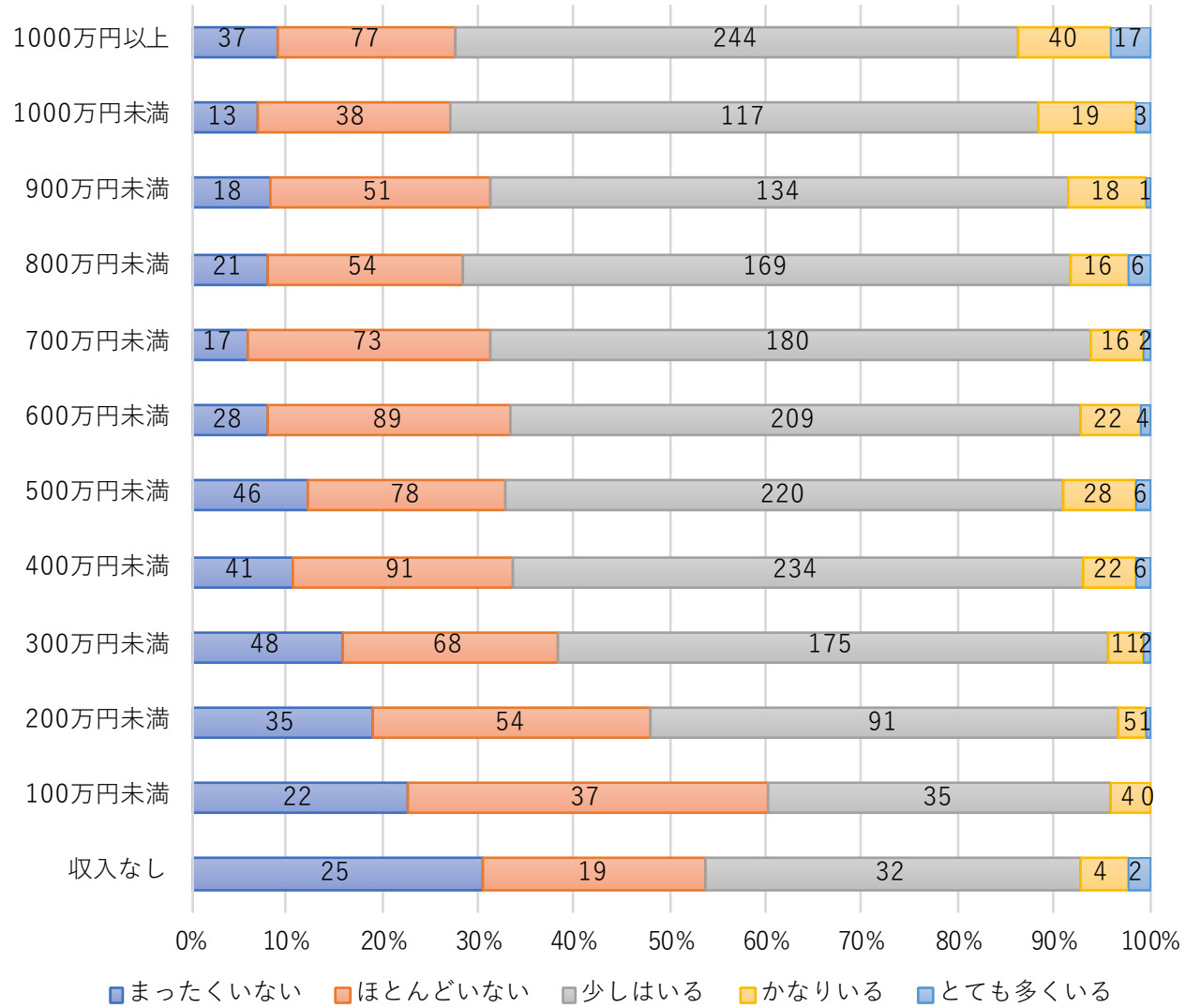
あなたには、普段からちょっとしたことで助け合ったり世間話をしたりする相手がどれくらいいますか。（男性）



あなたには、普段からちょっとしたことで助け合ったり世間話をしたりする相手がどれくらいいますか。（女性）



世帯年収と孤立との関連



孤立の不可視性

- 社会的(集合的)不可視性

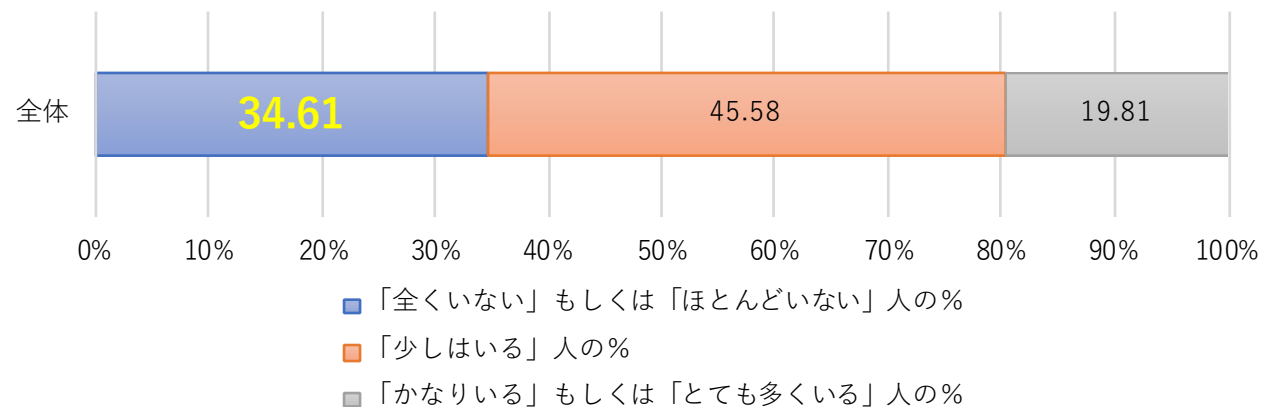
- それぞれの孤立状況にいる人が全体の何パーセントいるかの見積を求める
 - 「まったくいない」もしくは「ほとんどいない」人は()%
 - 「少しはある」人は ()%
 - 「かなりいる」もしくは「とても多くいる」人は ()%

- 被不可視性

- 回答者自身の孤立、非孤立状況をどれくらいの人知っていると思うか
 - 1 誰も知らない
 - 2 知っている人はあまりいない
 - 3 ある程度知られている
 - 4 知っている人は多い
 - 5 誰もが知っている

孤立の社会的(集合的)不可視性(1)

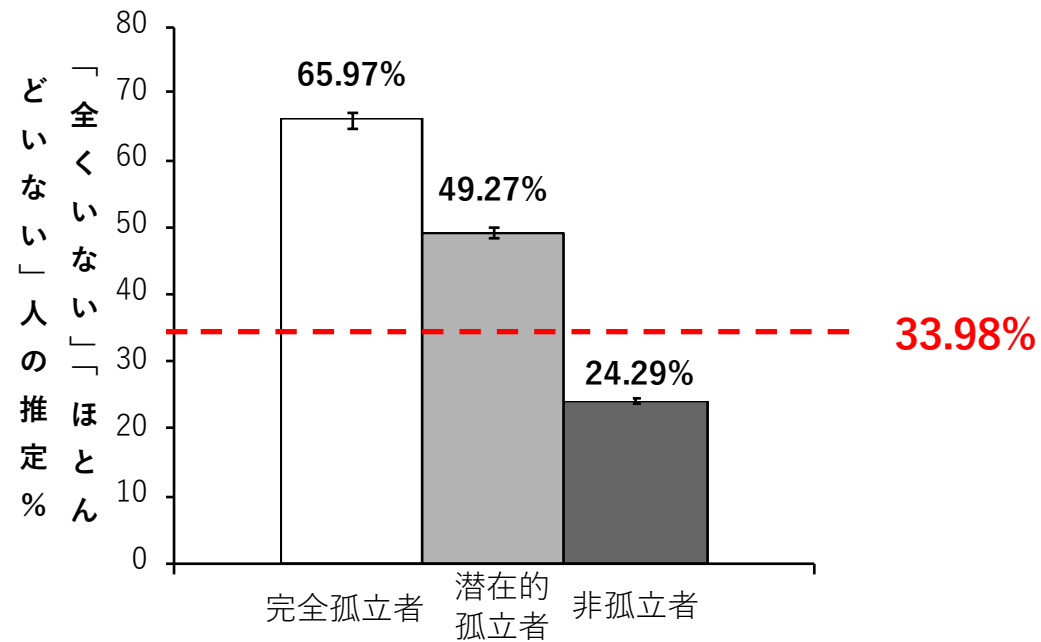
Q1にそれぞれの回答をした人の割合は何パーセントずつと予想しますか



孤立群に分類される割合が**33.98%**であり、これに分類されるであろうとの予測が**34.61%**。
→かなり正確に見積もられている。
→社会的に可視化されていると言えるか？

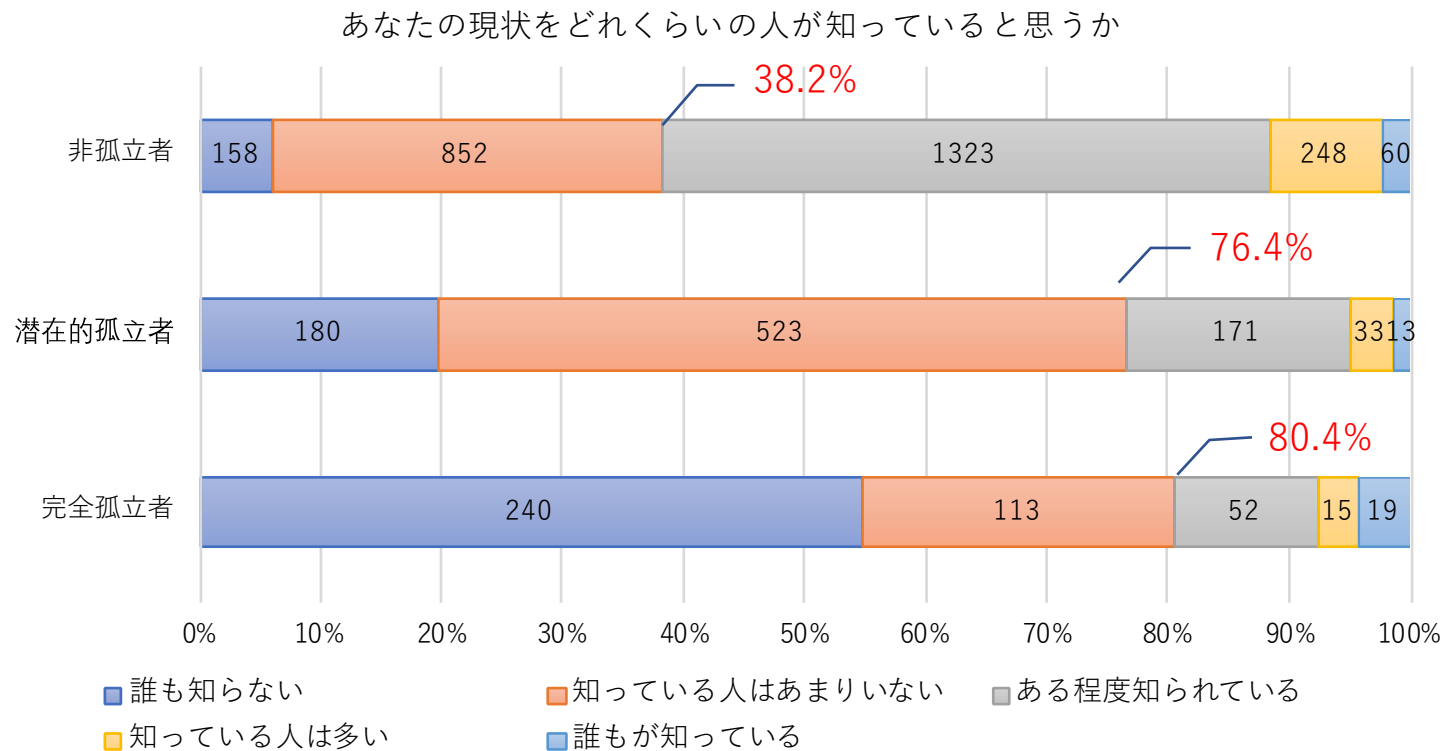


孤立の社会的(集会的)不可視性(2)



孤立していない人には孤立している人が見えていない。

孤立の被不可視性

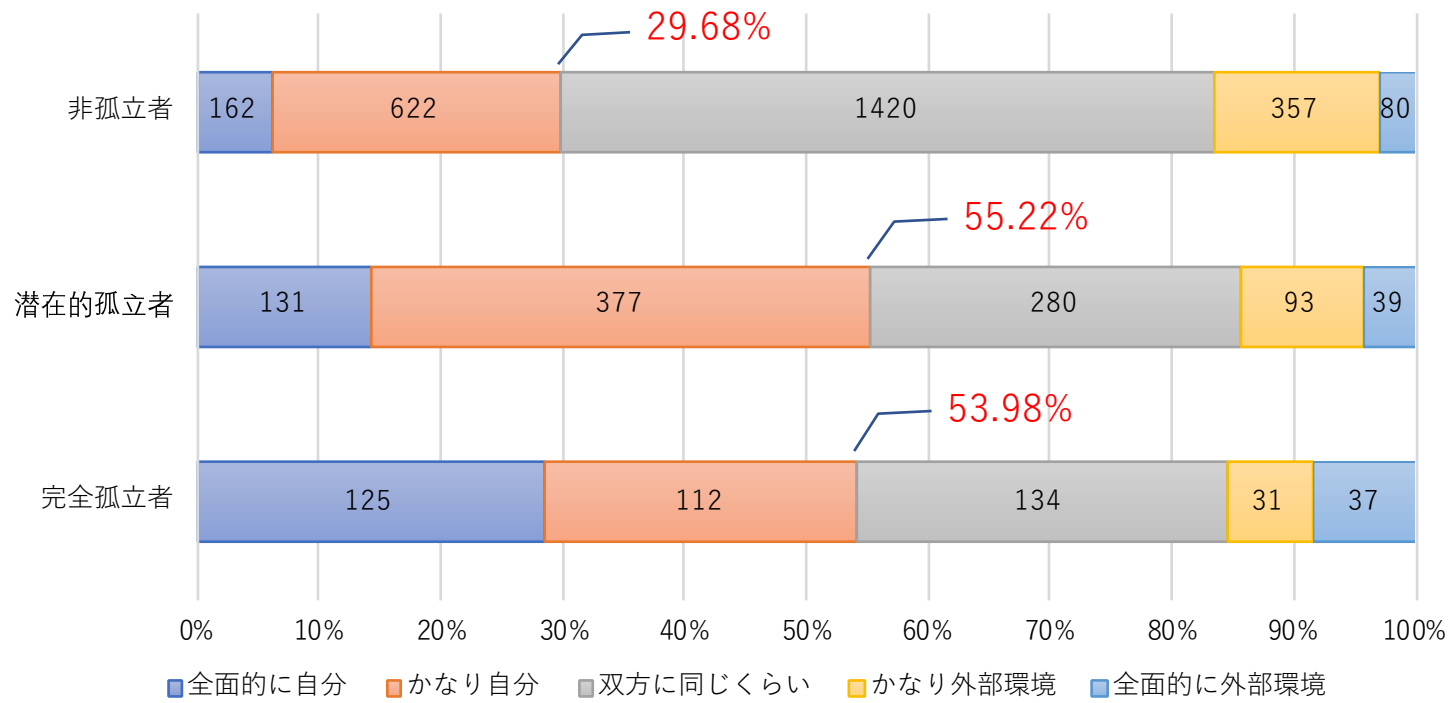


孤立者は、自分たちの孤立が周囲の人びとに見えていないと感じている。

孤立の自己責任化

- 自身の孤立・非孤立状態の原因・理由が自分自身にあると思うか、それとも周囲の人びとや社会の仕組みなどの外部環境にあると思うか
 - 1 全面的に自分自身に原因・理由がある
 - 2 かなり自分自身に原因・理由がある
 - 3 双方に同じぐらい原因・理由がある
 - 4 かなり外部環境に原因・理由がある
 - 5 全面的に外部環境に原因・理由がある

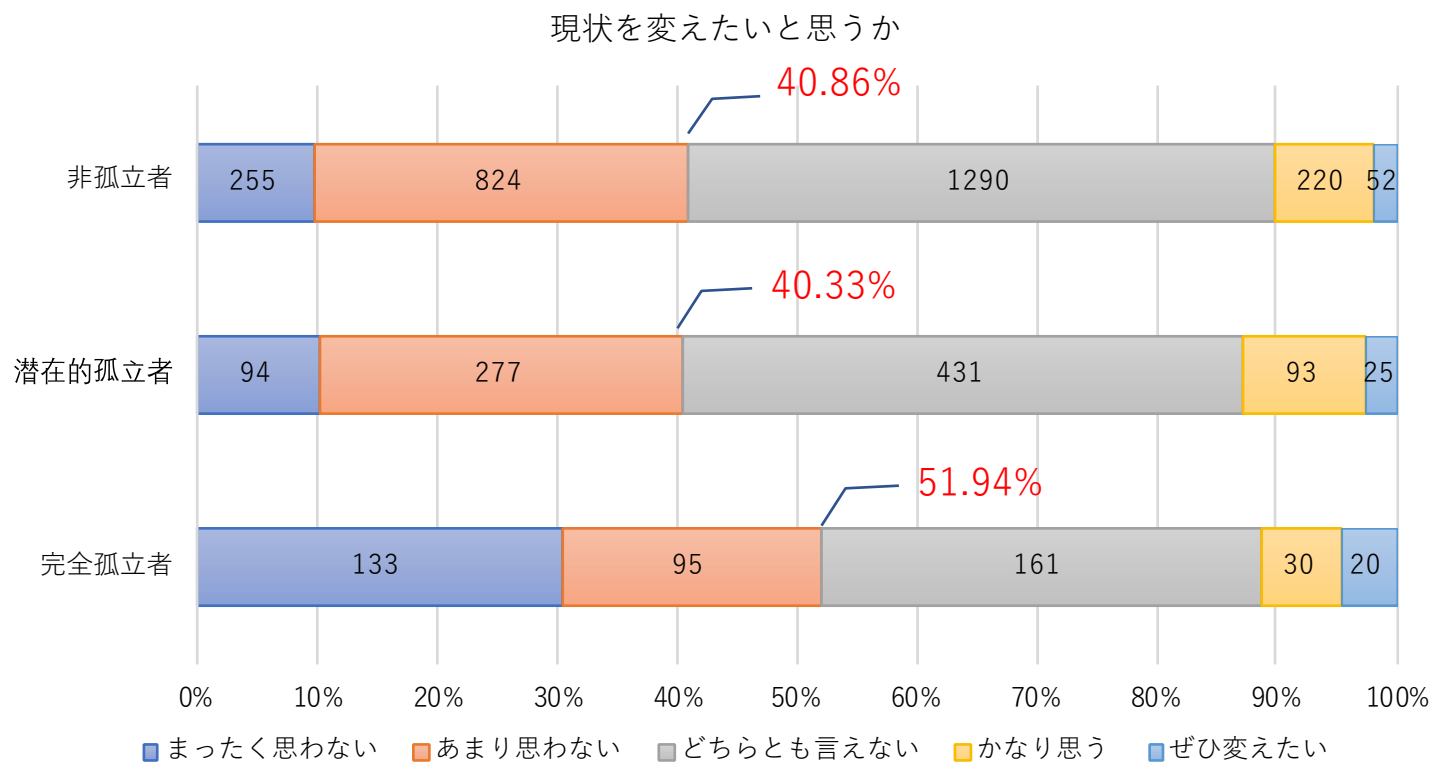
現状の原因・理由は自分自身にあるか外部環境にあるか



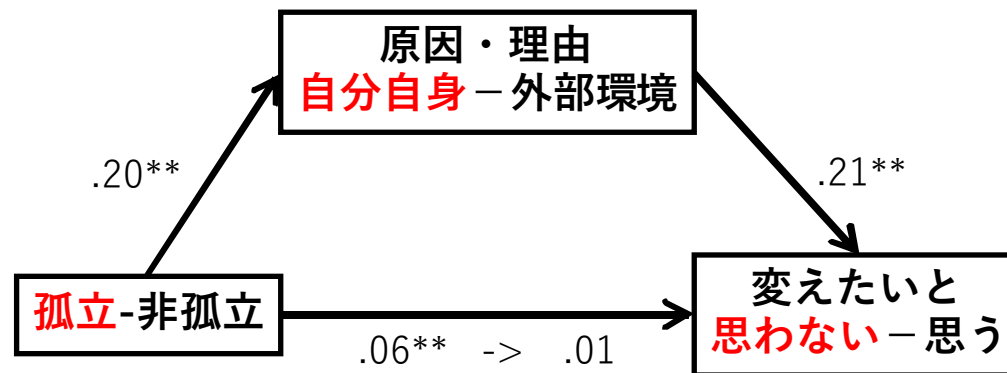
孤立者は自分の孤立の原因・理由が自分自身にあると思う傾向が強い

孤立の常態化

- 現状の孤立・非孤立状態を変えたいと思うか
 - 1 全く変えたいとは思わない
 - 2 あまり変えたいとは思わない
 - 3 どちらとも言えない
 - 4 かなり変えたいと思う
 - 5 ぜひ変えたいと思う
- (補) コロナ禍前と比較して増えたか減ったか
 - 1 大きく減った
 - 2 減った
 - 3 変わらない
 - 4 増えた
 - 5 大きく増えた

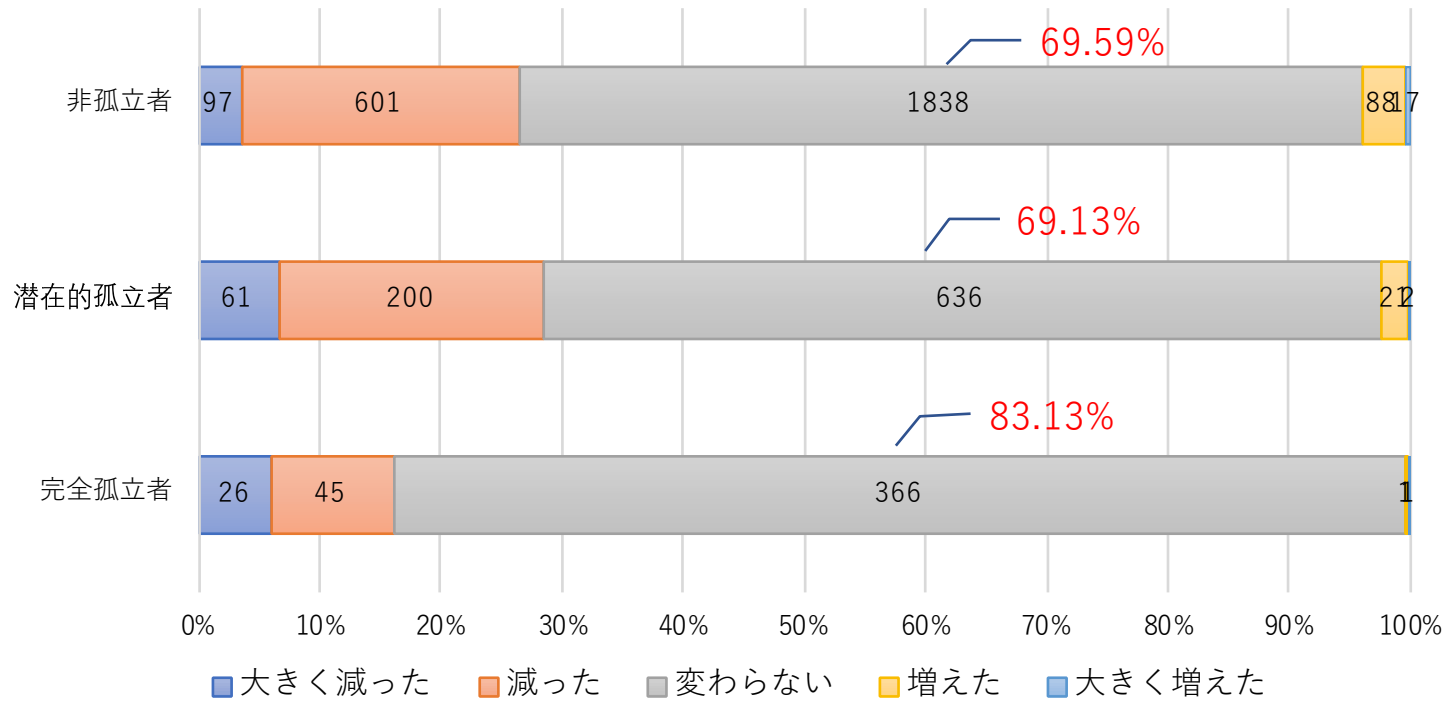


完全孤立者が最も現状を変えたいと思っていない



孤立者は自分の孤立の原因・理由が自分自身にあると思う傾向が強く、そのことによって、現状を変えようとは思わなくなっている可能性がある

コロナ禍以前と比較して増えたか減ったか

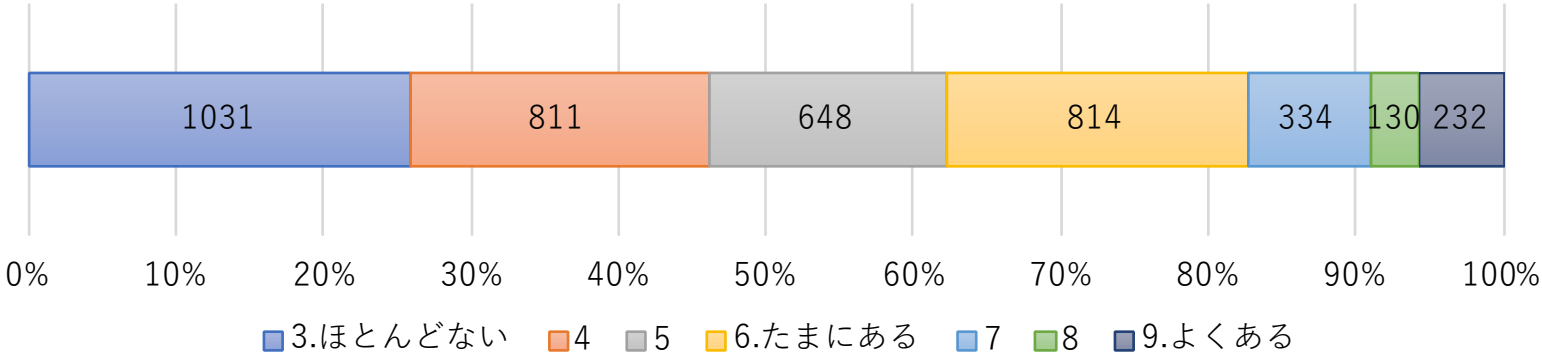


完全孤立者の8割はコロナ禍以前から完全に孤立していた

孤立と孤独感の関連

- 孤立と孤独感との関連
 - 連続変量として孤立-非孤立との相関を算出するとともに、孤立の群と合計得点のクロス集計で関連を探る
 - 合計得点の範囲は3～9
 - 3=3項目すべてで「ほとんどない」
 - 6=平均すると「たまにある」
 - 9=3項目すべてで「よくある」

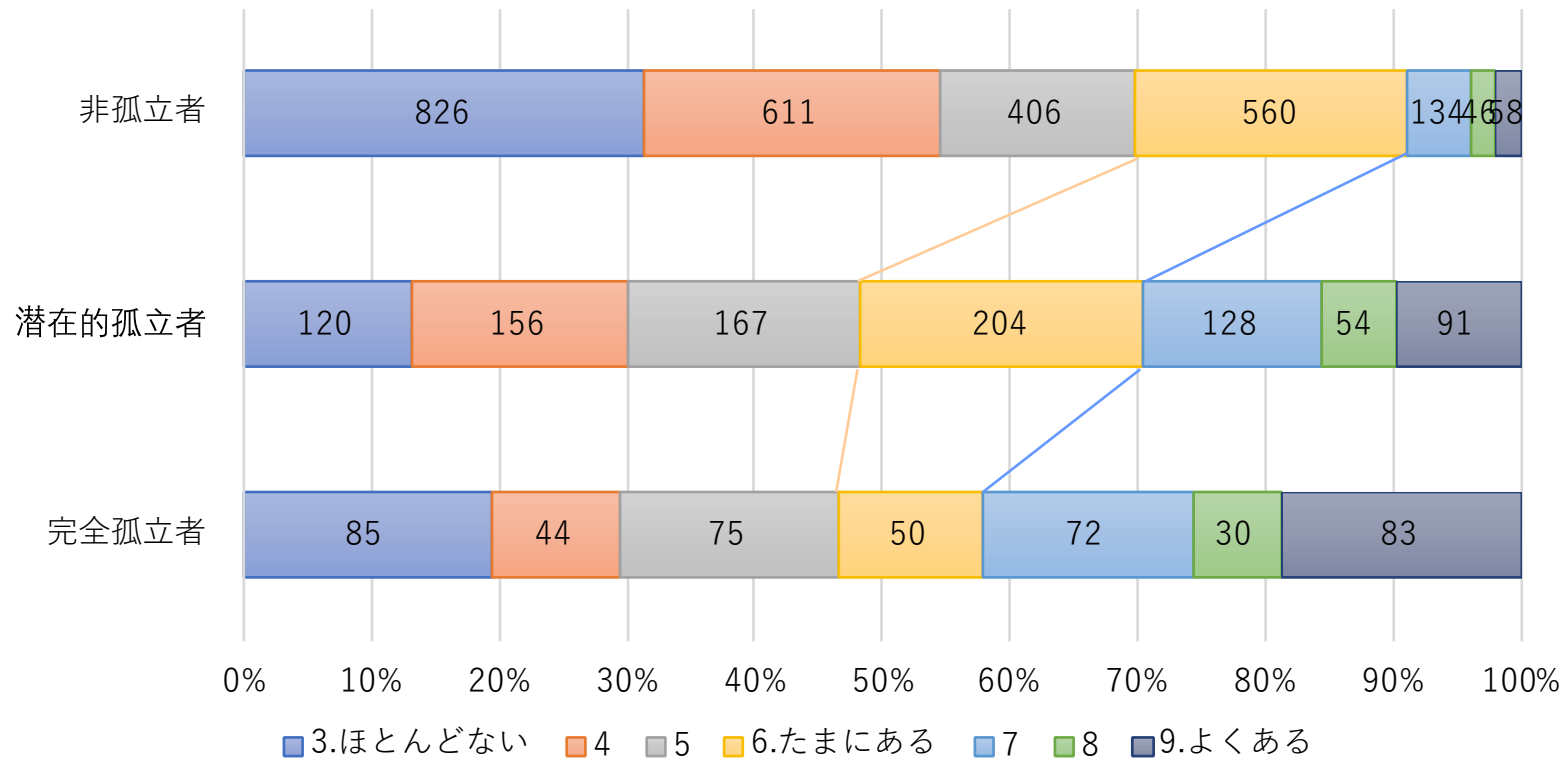
孤独感



• 孤立得点との相関は

• $r = .342(95\% CI = -.390 \sim -.292, p < .001)$

孤立と孤独との関連



孤立している人びとの半分は孤独を「たまに」以上の頻度で感じている
潜在的孤立者と完全孤立者との間には強く孤独を感じる頻度に差がある

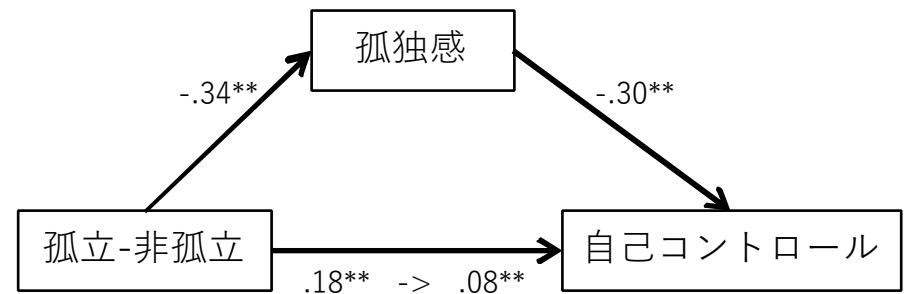
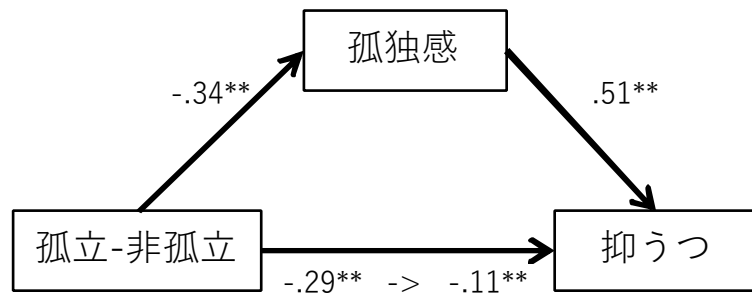
心身の不調、逸脱性との関連

- 抑うつ
- 自己コントロール
- 道徳的人生観
- 心的帰属(非人間化)
 - 人としての心をどれくらい持っている、持っていないと自己評価しているか
 - 認知
 - 意図
 - 感情
 - これらの得点が低いということは、自分自身を非人間化していることを意味する

変数名	抑うつ	自己コントロール	道徳的 人生観	心的帰属（自己非人間化）			VIF
				認知	意図	感情	
年齢	-0.053 *	.095 **	.216 **	.091 **	.075 **	.006	1.076
同居の有無	.022	-.057 *	-.061 *	.044	-.008	-.006	1.055
孤独感	.499 **	-.280 **	-.026	-.144 **	-.164 **	-.057 +	1.182
孤立-非孤立	-.108 **	.070 *	.121 **	.226 **	.213 **	.192 **	1.152
R^2	.316 **	.128 **	.081 **	.107 **	.110 **	.048 **	

孤独感は孤立よりも抑うつや自己コントロールと強く関連する

孤立は孤独感よりも道徳性や自己非人間化と強く関連する

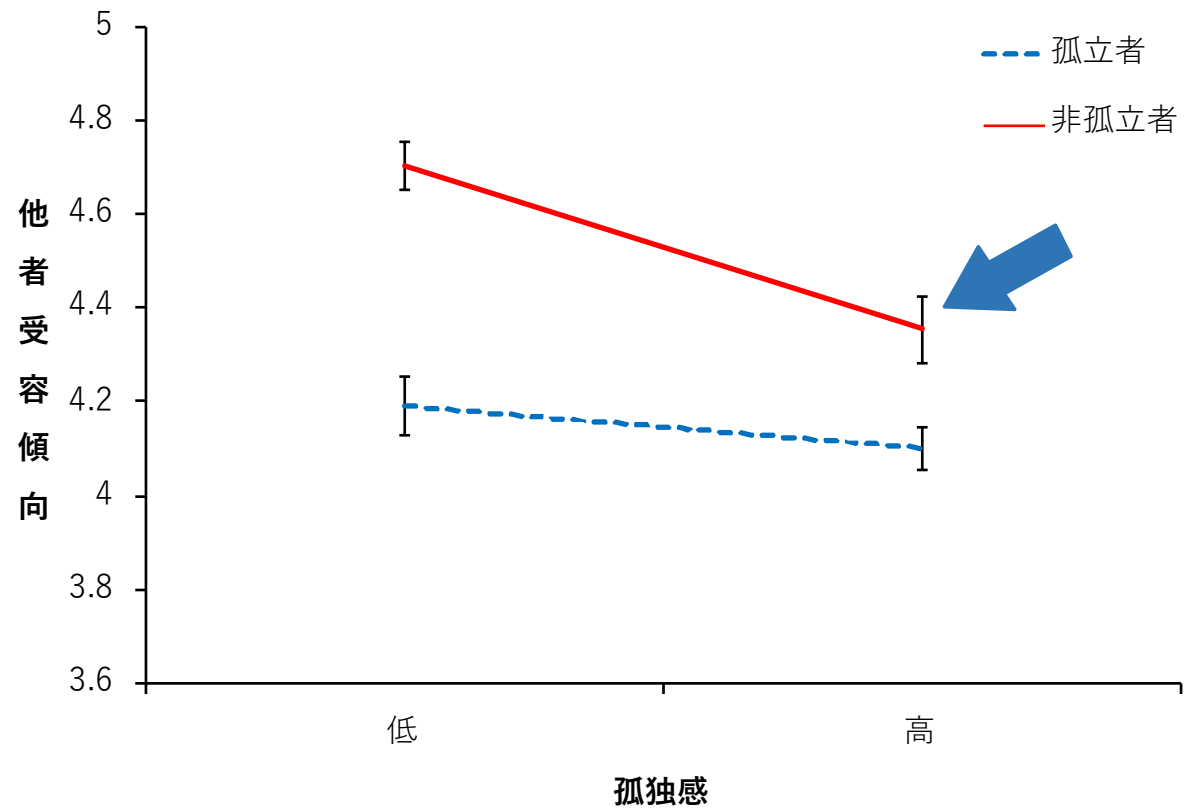


孤立は抑うつや自己コントロールと直接関連するとともに、**孤独感を高めることを介して抑うつや自己コントロールと関連する**

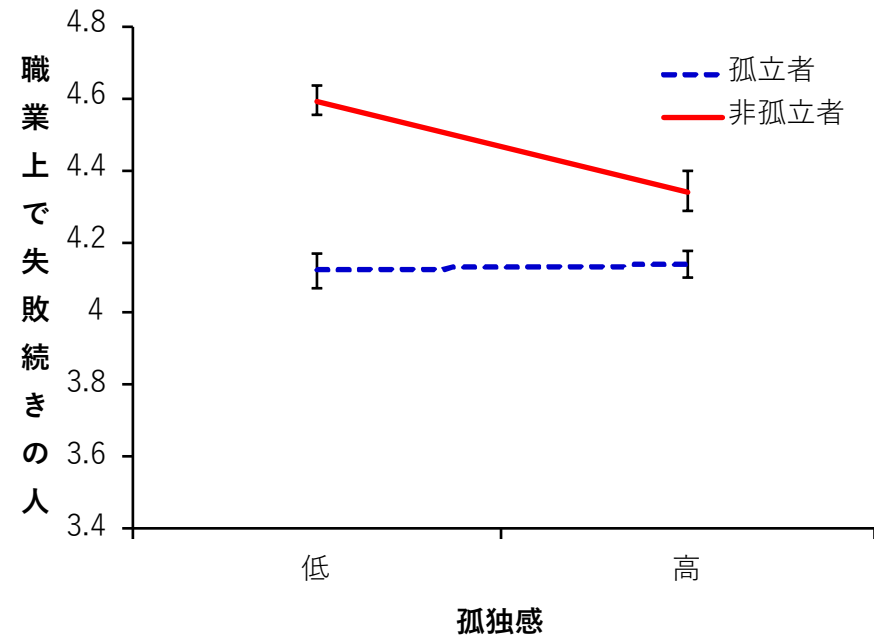
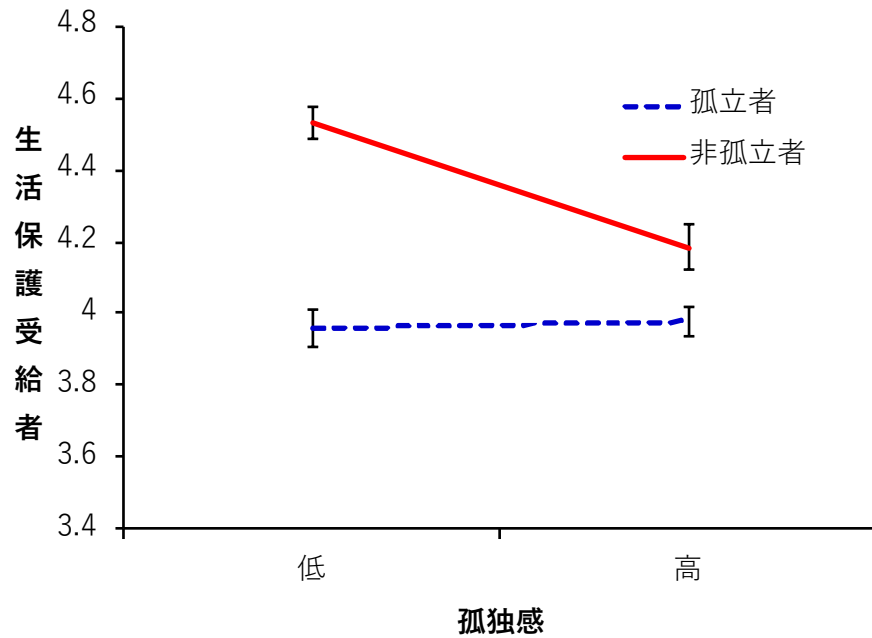
孤立・孤独から排除への連鎖

- 22の受容-排除対象をどの程度排除したいか、受容したいか
 - 絶対に受け入れられない(1)～まったく問題なく受け入れられる(7)
- 孤立、孤独と全体的な他者受容傾向、個別対象の受容傾向との関連

変数名	Step1	Step2
切片	4.362 **	4.340 **
孤立-非孤立	0.235 **	0.233 **
孤独感	-0.051 **	-0.061 **
孤立-非孤立*孤独感		-0.044 *
R^2	.057 **	.061 **



非孤立者は孤立者よりも全体的な他者受容傾向が高いが、その中でも孤独を感じている人びとは他者受容傾向が下がる



孤立・孤独の状態にある者は、孤立・孤独リスクの高い他者への受容傾向が低い
 →孤立の連鎖

孤立者の特徴

- 孤独を感じやすく、そのことが抑うつ傾向の高さや自己コントロールの低さにつながっている
 - 心身の健康を損ないやすい
- 社会の秩序や道徳を重んじる傾向が低い
 - 反社会的行動につながる可能性
- 他者受容傾向が低く、孤立リスクの高い他者に対する受容傾向も低い
 - 孤立・孤独の伝播

社会的孤立・孤独の予防の必要性

- 社会の中で見えにくく、自身も周囲から知られていないと考えている
 - 孤立・孤独状態の可視化による外部からの介入の促進
- 孤立している原因・理由が外部環境ではなく自分自身にあると考えている
 - 孤立が社会的な現象であるとの認識の必要性
 - サポート希求、サポートネットワークの拡大に向けての取り組みの促進
- 孤立している現状を積極的に変えようとは思っておらず、孤立の常態化が生じている
 - 孤立・孤独リスクの可視化による一次予防が必要